

Introduction

日没後の志木高…コウモリの話

6月21日の夏至に向けて夜は短くなりつつあります。実はクラブ活動などで、特に遅くならない限り(そして、自然に対する注意力がない限り)、見ることができない志木高の『夜景』とも呼ぶべきものがあります(収穫祭シーズンは関係者は一律に夜遅く帰る事になるようですが、10月下旬ではほとんどの生物の活動が鈍くなってしまいます)。

たとえば、夏休み中にカラスウリが開花期を迎えますが、このレースのように美しい花が咲くのは、夜9時以降、翌朝の日の出までです。

また、本校の敷地内から膨大な数のアブラゼミが羽化しますが、その羽化を見る事ができるのは、やはり夜9時以降です。羽化したてのアブラゼミは、半透明の乳白色ですが、数時間でお馴染みの茶色のまだら模様になってしまいます。

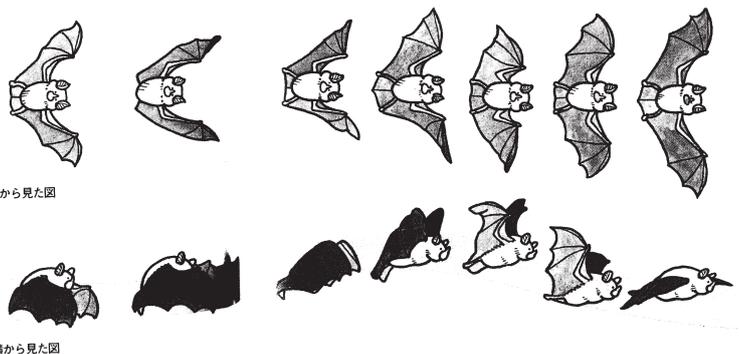
日没前後の志木高の夏の風物詩に、ひらひらと飛び回るコウモリがあります。運動部に所属して18時過ぎまで学校にいるにもか拘わらず、在校生の2,3年生には「コウモリなんか見た事ない」と言い張る方もいます。しかし、単に注意力が足りないだけです。夏になると斜路下、食堂坂の上の街灯のまわりや、カルガモのいる池の水面上を小さめの灰色のハンカチのような陰が飛び回っている事に気づきます。これがコウモリです。光や水を求めて集まる無数の昆虫を捕食しているのです。

志木近辺でごくふつうに飛んでいると思われる「イエコウモリ(アブラコウモリ)」は、昼間、家屋のはめ板と壁の間、雨戸の戸袋、瓦の下などを塹(ねぐら)とします(樹皮の下や洞窟で見つかる例はまれ)。頭蓋骨が通るところであれば、かなり狭いところでももぐり込めます。胴長でも最大6cm程度しかなく、頭蓋骨の大きさは皆さんの小指の先よりも小さいくらいです。…という事は、皆さんの小指が入る隙間であれば、どこでももぐり込めるという事です。

コウモリはネズミに近縁ですが、5300万年前の地層から世界最古と見られるコガタコウモリの化石が見つかっています。コウモリの翼は、人間でいえば親指以外の指の骨を自分の身長以上に伸ばして間に皮膜を張ったものです。空に進出した数少ない哺乳類です。

夕方、是非空を見上げて、見つけてみてください。

(Miyahashi)



志木の自然[卯月(4月), 皐月(5月), 水無月(6月)]

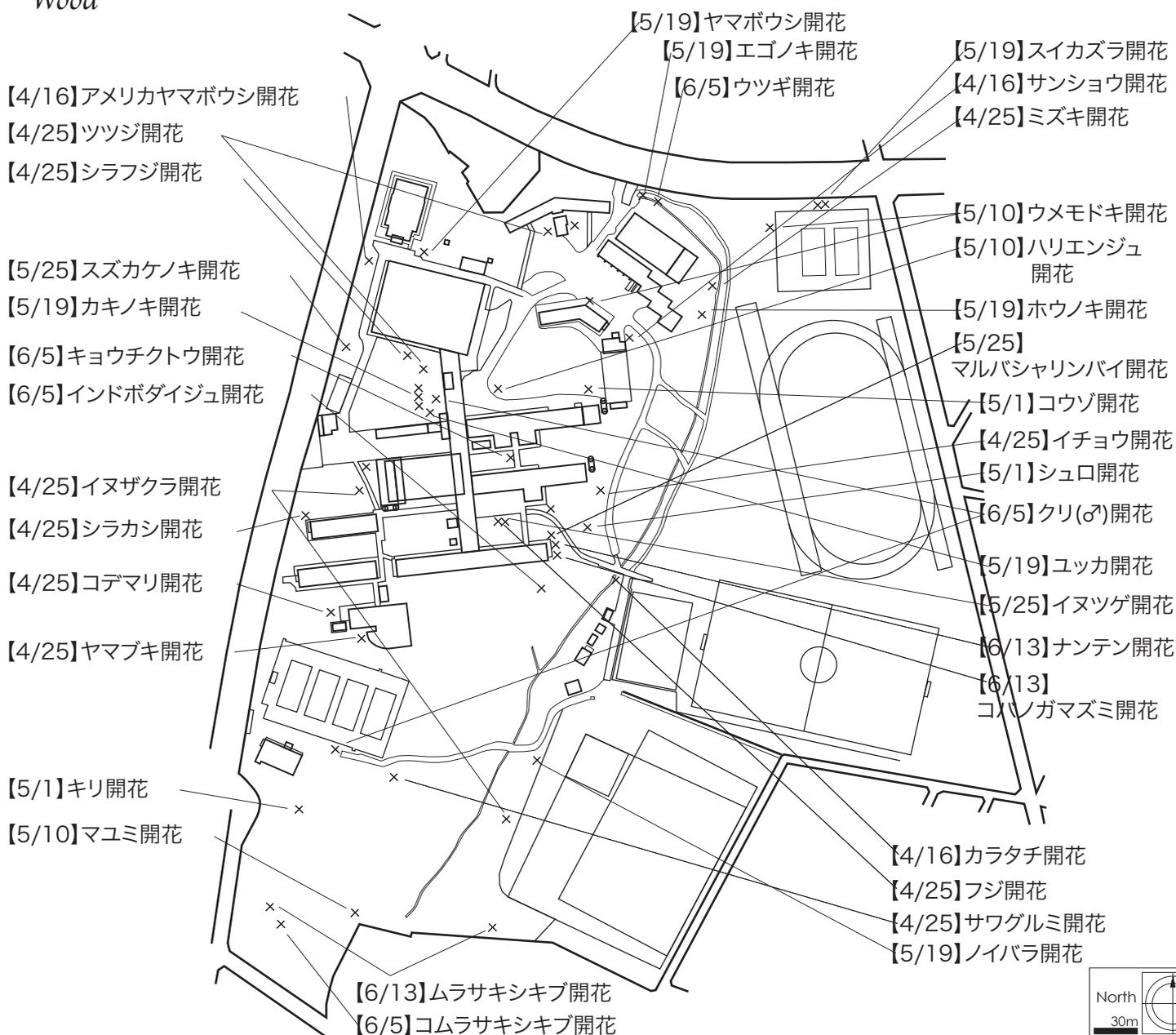
Plants [2006年4月~2006年6月までの記録]

今年の4月中旬は"フデリンドウ"が例年より多く見られたように思う。例年、4-5株程度しか、見られないものが、今年は20株近く開花の確認ができた。フデリンドウやフクジュソウなどは、春の早い時期に『開花・結実』を終え、5月末には地上部を枯らして長い休眠状態に入る。このような植物を欧州では"Spring Ephemeral(=春の短い命)"と呼ぶ。

Grass

- 16th Apr. 2006 ムラサキサギゴケ, ハルジオン, ヤエムグラ, フデリンドウ, オニタビラコ, アズマネザサ, スミレ, ヤブジラミ, オランダガラシ開花。
- 25th Apr. 2006 シロツメクサ, スズラン, ウラジロチチコグサ開花。
- 1st May. 2006 イヌムギ, ヤブタビラコ, ノミノツツリ開花。
- 10th May. 2006 イヌナズナ, エゾノタチツボスミレ, コヒルガオ, シバ, ツボミオオバコ, ギシギシ, アカバナ, アメリカフウロ開花。
- 19th May. 2006 ニワゼキショウ, ドクダミ開花。
- 25th May. 2006 ヒメレンゲ, ノビル, ノミノツツリ開花。
- 5th Jun. 2006 アサザ, ハキダメギク, スイレン, オオカナダモ(6/8)開花。
- 13th Jun. 2006 カモジグサ, スズメノカタビラ, ホタルブクロ, イヌタデ, コナスビ, トキワツユクサ開花。

Wood



この限られた紙面では、名前を出ている植物や動物がどのようなものであるかをお示しする事は不可能です。名前を手がかりにぜひ図書館で一度調べてみてください。

(Miyahashi)

最近、生物室脇の池で、大きな声でカエルが鳴いているのに気づいた人も多いのではないのでしょうか。その正体は、トウキョウダルマガエルというカエルです。このカエルはよく田んぼにいてトノサマガエルと呼ばれていますが、実は関東にいるのはトノサマガエルではなくちょっと足の短いトウキョウダルマガエルです。誰かが持ち込んだのか、はるばるやって来たのか謎ではありますが、スイレンの花も見事に咲いてカエルの鳴き声がそこに加わり、急に池らしくなってきた気がします。

一方、南池(実習農園脇の池)では周辺の樹の上でアマガエルが鳴いています。梅雨の季節にはいかにもな情景ですが、実は校内では何年もアマガエルの声はほとんど聴かれることはなかったのです。おそらくアマガエルも外からやって来たのでしょう。ビオトープも生物たちに認知されてきたということでしょうか。そう考えるとうれしい限りです。まだ他にも気づかない所で、生物たちが人知れず校内にやって来ているかもしれませんね。生物たちが生息できる自然環境を再生してさえやれば、ひとりで生物たちは集まってくるのです。これからどんな生物たちがやって来るのか楽しみにしながら、校内の自然再生に皆で取り組んでいこうではありませんか。

PS：池のオタマジャクシ達は全てカエルになって旅立っていきました。

南池ではアサザが黄色い花を咲かせています。

(Izawa)

寒気襲来

Meteorology

5月に入った頃から突然の大雨や雷雨が増えました。その大きな理由は、昼間の気温が上昇したところに、上空の寒気がやってきて、地上と上空の大気が入れ替わる激しい対流(暖かい空気は軽く冷たい空気は重い)が起こるからです。

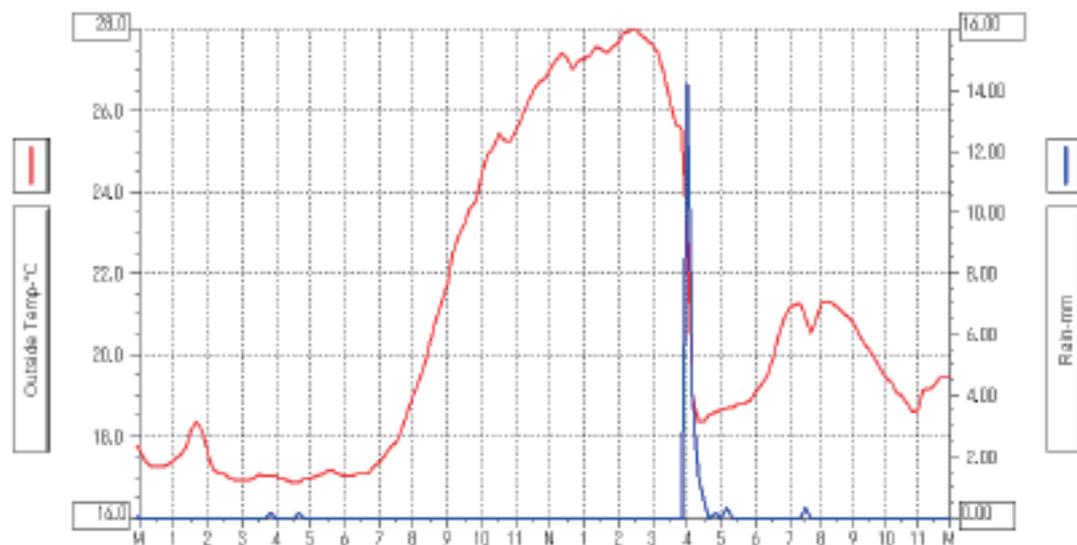
志木校で5月に降水が5mm/day以上あった日は2,7,13,19,20,24,27,28,30日で、降水量が最も多かったのは24日で58.3mm/day、激しい落雷があったのが30日でした。24日の降水のほとんどは18～19時に降り、18:00～18:10の降水強度は45.7mm/hに達し斜路の下が冠水してしまいました。30日の落雷は志木周辺に直撃したようで、校内でも警備室、柔剣道場、グラウンドに落ちたと聞いています。

図は20日の志木校で観測された気象データです。この日は非常に顕著な寒気の下降がありました。当日は午前中から天気が良く、地上の最高気温は28.0°C(14:30)を記録しました。ちょうどその頃、上空には寒気が到来しており、重たい寒気と地上の軽い暖気とが入れ替わる対流がはじまります。15:00には27.6°Cあった気温も17:00には

18.7°Cと、2時間で実に8.9°Cも気温が下がりました。対流によって15:50～16:20に19.6mmの降水があり、15:50～16:00の降水強度は36.6mm/hに達しました。

対流があった証拠は他にもありました。風です。14:30を過ぎた頃から北～北北西の風が徐々に強くなり、15:20～15:50の最大瞬間風速は9～10m/sに達します。次の雨が降る10分間の15:50～16:00に風向は南東に急変し、最大瞬間風速15.6 m/sの突風が吹きました。つまり、上昇流の15:50までは北～北北西の風、雨と一緒に降りる寒気の下降流からは南東の風となったわけです。

気圧のデータを見ていたら、雨が降る直前の10分間(15:40～15:50)に991.7hPaから995.0hPaに上昇していました。気圧の上昇があってからの土砂降り。これは24日の大雨の場合も同じ傾向(24日の場合は数時間前から徐々に上がっている)がありました。気圧計を持って歩けば・・・もしかしたら、直前に雨を回避できるかも・・・かもしれません。



(Higuchi)

螢の歌

西の方では螢が飛び始めたようです。

螢の歌、三首。

夏の恋の心をよめる

恋すれば燃ゆる螢も鳴く蟬も我が身のほかのものとかやは見る

(千載和歌集・前中納言雅頼)

(口語訳) 恋をしていると、我が身を燃やす螢も声を振り絞って鳴く虫もまるで他人事とは思えないのだった。

螢をよみ侍りける

音もせて思いに燃ゆる螢こそ鳴く虫よりもあはれなりけれ

(後拾遺和歌集・源重之)

(口語訳) 声も立てずじっと思いの火を燃やすのが身上の螢は、幾千の鳴く虫よりもあわれだ。

男に忘れられて侍りける頃、貴船にまゐりて、

御手洗川に螢の飛びけるを見てよめる

もの思へば沢の螢も我が身よりあくがれ出づるたまかとぞ見る

(後拾遺和歌集・和泉式部)

(口語訳) 物思いのうちに、ふと見ると水辺からふらふらと螢が飛び立った。それはまるで

我が身から抜け出て男のもとへ飛んでいこうとする私の魂のようだ。

なお、この歌には貴船明神からの返歌がついている。その歌

奥山にたぎりて落つる滝つ瀬のたまちるばかりものな思ひそ

(速水 淳子)

カルガモ【編集後記にかえて…】

この原稿を編集している6月15日現在、5羽のカルガモのヒナが順調に育っている。どうやら、5月30日(火)～6月1日(水)にかけて、巣箱から出てきたらしい。去年は8羽孵ったが、翌日までに7羽がカラスに捕食されたらしく、無事巣立ちできたのは1羽だけだった。

カルガモを保護しなければならない理由はないのだが、ヒナが可愛いので巣箱を提供している。カラスに負けるのも悔しいので、対抗策を講じてみたりしている。いまのところ、成功しているようである(ムキに張り合うのも大人気ないが、大人気ないのは大人の特権である)。カルガモは志木高の風物詩だが、人間と同じで大きくなると可愛くなくなる。

(Miyahashi)

執筆・担当区分	動物・環境	井澤 智浩 (Izawa)
	天文・気象	樋口 聡 (Higuchi)
	鳥類・植物	速水 淳子 (Hayami)
	植物・地質 他[&発行責任]	宮橋 裕司 (Miyahashi)